

友好都市議員交流会開催報告

桑名市と白河市と行田市の関係は約 180 年前に遡る事から、4年に1回友好都市議員交流会を開催しています。今回は、福島県白河市が開催会場で高橋白河市議会議長の挨拶から始まり、鈴木白河市長、安藤桑名市議会議長、吉田行田市議会議長の挨拶がありました。特に鈴木市長からは、3・11 発生後、2市の迅速な対応は国、県より早く、災害時・緊急時は自治体単位の小回りの利く協力体制が必要とお話がありました。友好都市交流の必要性が十分理解できました。



高橋光雄白河市議議長



鈴木和夫白河市長の挨拶



安藤寛雅桑名市議議長

挨拶の後、白河市被災状況や白河市震災復興計画について小峰城の被災状況と今後の復旧計画について、現地に行く前に説明を受けました。



白河駅で見つけた3市の記念碑 ⇒

白河市の被災状況(3月11日東日本大震災)市民生活部生活環境課

1. 被災の概要

白河市では震度6強を観測し、地震発生直後から電話が不通、断水、鉄道が不通、道路の陥没、法面崩壊、建物倒壊、ガソリンなどの燃料不足、食料品などが品薄。

市内での犠牲者は15人(白河市は津波災害ではなく、法面崩落・倒壊等の下敷き被災)

被害額は、河川や道路、公営住宅、下水道、上水道、農業用施設などの60億円を超える。小峰城の石垣崩落などの文化財の被害を加えると、膨大な復旧費用が見込まれる。

また、現在でも400人を超える市民が市外へ自主避難をしている。

さらに、原発事故による健康不安や福島県産のあらゆる物が敬遠され、深刻な風評被害は現在も続いている。

る。

2. 被害状況

(1) 通信手段

固定電話、携帯電話が全く使用できず、災害対策本部と災害現場、あるいは本庁と各庁舎など出先機関との連絡が遮断され、情報収集に困難を極める。

(2) 飲料水

水道は、市内各所で多数の漏水があり、復旧まで2週間以上を要する。この間、炊事、洗濯、風呂、トイレなど市民の日常生活が麻痺する状態となり、市内3ヶ所に設置の貯水槽や給水車による飲料水等の供給の際には、多くの市民が順番待ちをする状態となる。

(3) 道路関係

道路は、市内のあらゆる場所での陥没や法面崩壊により通行止め区間が数多く発生するとともに、ブロック塀が道路側に倒壊するなど安全な通行に支障をきたす。

(4) 避難所

避難所は、地震発生直後21ヵ所開設し1,250名以上が避難をする。(市内約800人・JR乗客約400人)この間、避難者への食料や寝具、暖房器具、燃料、仮設トイレなどを調達する。

(5) 救助活動

市内葉ノ木平地区では10万㎡を超える大規模な土砂崩れが発生し、13名が犠牲となる。

現場では、消防署、警察署、自衛隊、消防署、建設業者が24時間対応で救助活動を実施し、テレビや新聞が連日報道する事態となった。

(6) その他

燃料不足は深刻で、ガソリンスタンドは給油待ちの車で長蛇の列をなし、1時間以上並び20リットル程度の給油となる。また、事件を未然に防ぐため警察署員が配置されるガソリンスタンドも出る。

食料品などの品薄も深刻で、コンビニやスーパーにはカップラーメンが無くなり、またペットボトルのジュースや水も無くなる状態となる。さらに、菓子パンや弁当も品薄となり、店内の様子は一変する。



「白河市震災復興計画」の概要 市長公室企画政策課

1. 計画の位置付け・役割

復興に向けた市の基本的な方針や重点化すべき取り組み内容を示す行政計画。

復興への目標や取り組み内容等を市民・事業者等にわかりやすく示すことにより、市民等の不安の解消、市民等との目標の共有、市の取り組みへの理解と協力の促進を図り、効果的かつ効率的な事業推進を目指すものとした。

2. 計画の期間

概ね10年後を見据え、平成23年度から27年度までの5年間の計画とした。

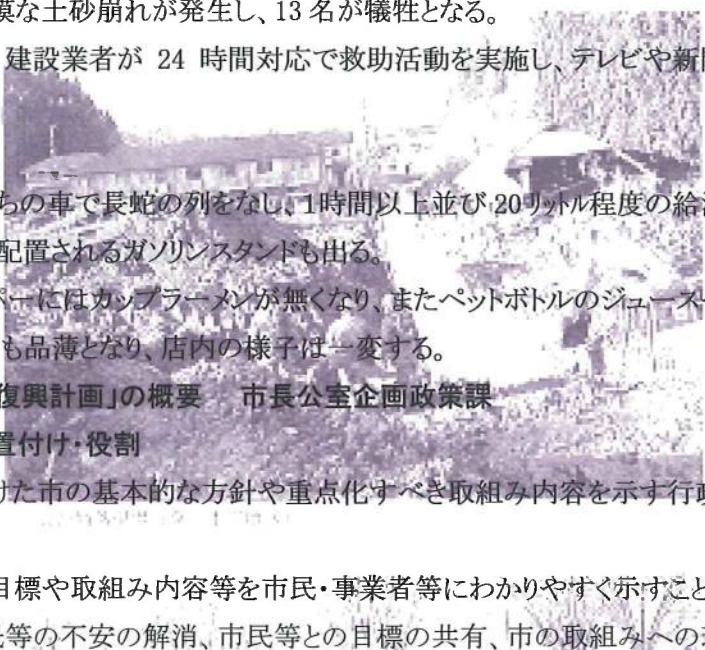
(震災以降、本計画の策定と並行して実施してきた取り組みを含む。)

3. 復興の理念と目標

先人たちから受け継いだ「ふるさと白河」を更に魅力あるまちとして次世代へ引き継いでいくため、

- ・単なる現状復旧にとどまらない
- ・震災の経験・教訓を活かす
- ・少子高齢化、地域コミュニティの希薄化などの社会的課題にも対応する
- ・再生可能エネルギーの活用などの新たな取り組みを進める

などの基本的な視点に立ち、復興に向けた基本理念を次の通り3つ掲げた。



基本理念1 安全安心な暮らしの確保

基本理念2 災害に強く持続的に発展するまちづくり(ハード・ソフト面からとコメントあり)

基本理念3 地域のきずなと協働の構築

また、復興の基本理念を踏まえ、次の5つの基本目標及び関連する主要施策を掲げ、一体的な復興の実現に向けて取り組むものとした。

基本目標1 原子力災害の克服(公共施設 108 箇所でのモニタリング実施)

基本目標2 市民生活の再建

基本目標3 安全・安心のまちづくり(情報伝達強化)

基本目標4 産業・経済の復興

基本目標5 魅力ある地域と人づくり

4. 緊急重点事項

主要施策の中でも特に緊急性の高い取組みを「緊急重点事項」の位置付け、優先的に取り組むものとした。

緊急重点事項(緊急性の高い取組み)

1. 原子力災害への対応

2. 被災者の生活支援

3. 社会生活基盤の確保

5. 復興重点施策

本市が将来に向かって持続的に発展していくために重要な取組みを「創造的復興に向けた重点施策」に位置付け、横断的な施策展開を進めるものとした。

創造的復興に向けた重点施策(将来を見据えた取組み)

1. 産業振興による雇用機会の創出

2. 子育て支援の推進

3. 地域のつながりと高齢者の元気づくり

4. 歴史と文化を活かしたふるさとづくり

5. 災害に強い道路網の整備(国道4号線から広域的なネットワークづくり)

6. 再生可能エネルギーの推進(バイオマス・太陽光)

小峰城跡の被災状況と復旧について 都市政策室文化財課

1. 史跡指定

平成 22 年8月5日に、本丸。二の丸を中心とした約 12ha について国史跡の指定を受ける。

2. 被災状況

平成 23 年3月 11 日の本震で9ヵ所、4月 11 日の余震で1ヵ所の計 10 ヵ所において、石垣が崩落した。また、石垣のハラムや目地の開きは多数見られた。

修復に必要な事業費 約 20 億

修復に要する年数5~7年

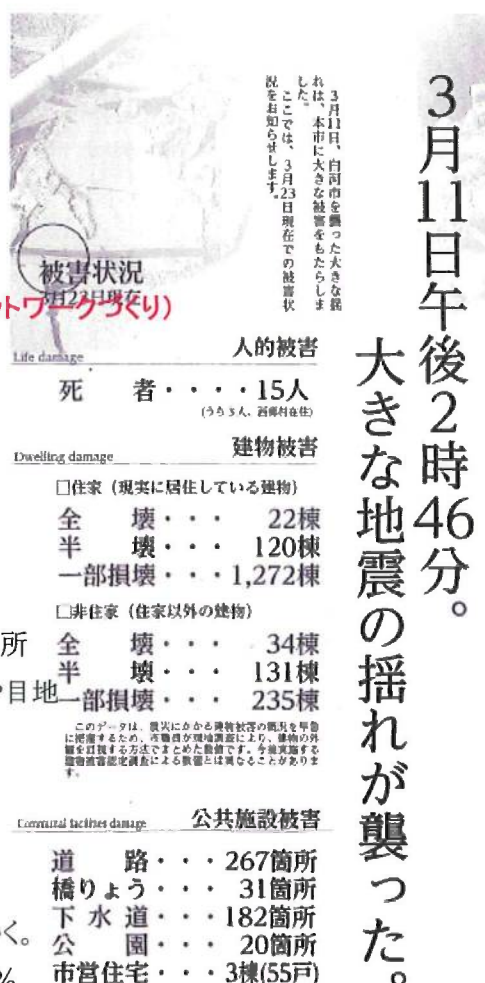
3. 復旧作業

①復旧作業は、国の文化財災害復旧事業の枠で行っていく。

事業費の負担割合 国補助 70% 県補助 15% 市 15%

②本丸南面から三重櫓までの範囲を第1次修復範囲と位置づけて、作業を行っていく。

現在の作業:本丸南側



- ・崩落箇所の記録化
- ・崩落石材の撤去
- ・崩落石材のカルテ作成(石材 12,000 石で再利用出来るか調査ナンバリング)

4. 復旧作業の公開等

- ・復旧作業は、極力市民に公開を図りながら進めていくことを基本姿勢としている。
- ・昨年 10 月 2 日に崩落状況の見学会、12 月 4 日には小峰城と城下町における震災と復興についての講演会を開催した。
- ・市のシンボルの復旧を市民と共に実現していくため、お城での様々なイベントも今後企画していく。

被災した小峰城跡の石垣

白河市教育委員会

小峰城跡の石垣は、現在総延長で約 2 km 残存しています。今回の東日本大震災では、本丸部分を中心とした 10 箇所において、石垣が崩落してしまいました。

石垣の修復方法については、地質調査や発掘調査等を進め検討を重ねますが、その経過は講演会や現地見学会を通じて皆さんへお伝えしてまいりますので、引き続き小峰城跡石垣の再生に向けご理解とご協力をお願いいたします。



昭和にも崩落しており、今回の東日本大震災では、その修復した部分が崩落している場所が多いと説明がありました。



①本丸南面崩落前



①本丸南面崩落状況



②竹之丸南面崩落前



②竹之丸南面崩落状況



(現在の様子です)

ここでの説明では、今回の地震では揺れが長く続きました。木が大きく揺れ、根の部分に近い所が崩落していたようです。木を植える際も気をつけないといけないポイントかと思いました。



③竹之丸南面西崩落前



③竹之丸南面西崩落状況



(現在の様子です)



④月見櫓跡崩落前



④月見櫓跡崩落状況



(現在の様子です)



⑤⑦本丸北面崩落前



⑤⑦本丸北面崩落状況



この部分も、以前崩落し修復した所がまた東日本大震災で崩落したようです。
今後、どのように力が加わり、どのように崩れたか調査をしていくようです。
過去に造った物と、新しく修復した部分は見た目には普通なのですが、自然の
力が加わると修復した所の脆さが目立ちます。
桑名市もこの様な箇所があれば、十分に調査をしていかなければならない。



(現在の様子です)

本丸南面から三重櫓までの範囲を第1次修復現場



江戸時代のナンバリングの跡



昭和崩落時に入れた岩です。



カットした事により滑りやすくなった
のではないのでしょうか。
←それにカットの跡

崩落石材の撤去



崩落石材のカルテ作成



